

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
早期水稲	いもち病(葉いもち) イネミズゾウムシ	並 やや少	並 やや少
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病(<i>G.cingulata</i>) ハダニ類	少 並 やや多	少 並 やや多
アスパラガス	アザミウマ類	前年並	前年並
かんきつ	そうか病 かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	並 並 並 並 並 並	並 並 並 並 並 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシヒメシンクイ	並 やや多 やや多	並 やや多 やや多
なし	黒星病 アブラムシ類	やや少 やや多	やや少 やや多
ぶどう	黒とう病 チャノキイロアザミウマ	並 並	並 並
果樹共通	カメムシ類	少	少
茶	炭疽病 カンザワハダニ クワシロカイガラムシ チャノココクモンハマキ チャノホソガ チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ	並 並 並 並 やや多 やや多 やや多	並 並 並 並 やや多 やや多 やや多

【発生予報】 本文の()内は平年値

早期水稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(31筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 5月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

2. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(31筆)の結果、食害株率は2.5%(3.9%)、発生圃場率は35.5%(36.1%)、1株当たり寄生成虫数は0.0頭(0.0頭)であった。

イ 5月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、食害株率は32.0%(39.5%)、1株当たり寄生成虫数は0.0頭(0.0頭)であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(29筆)の結果、発病株率0.3%(4.4%)、発生圃場率3.4%(24.5%)であった。

2. 炭疽病(*G.cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(29筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率0.0%、発病株率0.0%)。

イ 5月8日に育苗床2地点のランナーよりイチゴ炭疽病(*G.cingulata*)菌を分離し、本年の初発を確認した。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(29筆)の結果、寄生株率は4.0%(1.8%)、発生圃場率は24.1%(11.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤散布は散布むらがおこらないように、葉裏まで付着するように十分量をていねいに散布する。

イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

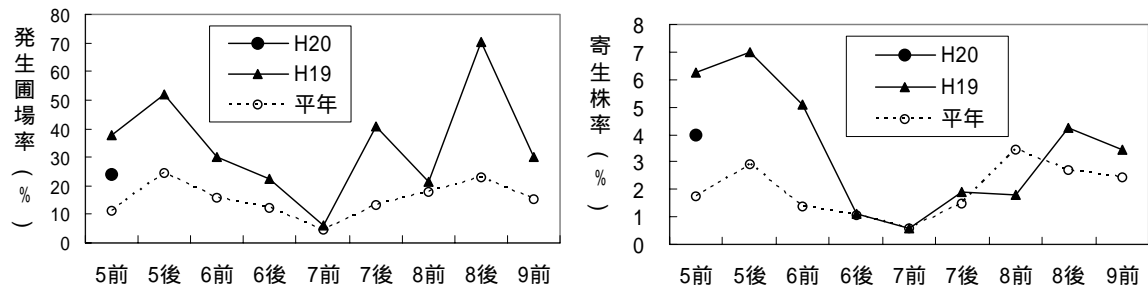


図 いちご育苗床 ハダニ類の発生推移(巡回調査)

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 前年並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(9筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は5.4頭(前年4.6頭)、発生圃場率は77.8%(前年77.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

アザミウマ類が増加しやすい時期になるので、発生に注意し、早期防除に努める。

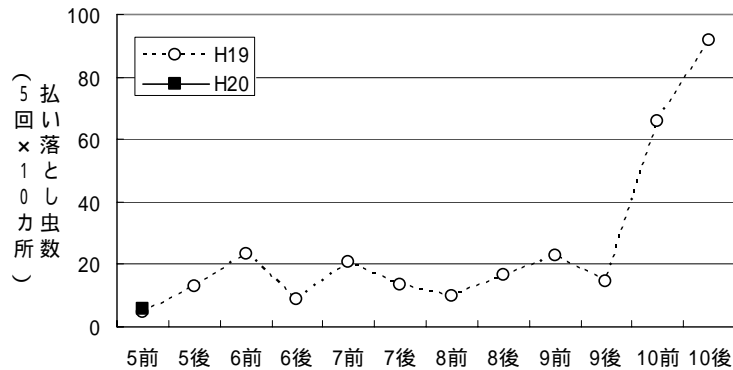


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は5.1%(3.5%)であった。

2. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率0.0%)。

3. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

向こう1ヶ月の降水量は平年並の見込みである。

4. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は0.9%(2.4%)、発生圃場率は

21.1% (25.8%)であった。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並に推移している(図)。

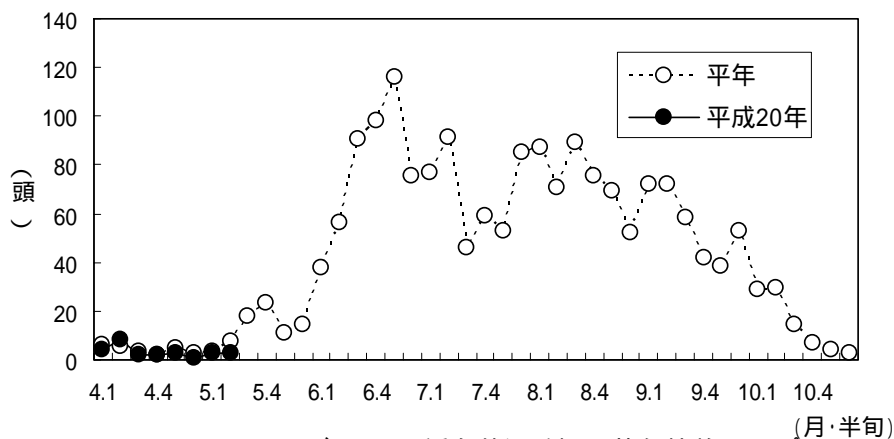


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況(諫早・黄色粘着トラップ)
平年は平成10～19年の平均

(3) 防除上注意すべき事項

ア 下表の予測発生ピーク日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。

イ ただし、発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達する前に防除を行う。

ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる第2世代成虫の予測発生ピーク日

地区名	長崎	佐世保	大村	島原	松浦
予測ピーク日	6 / 8	6 / 9	6 / 12	6 / 9	6 / 20

注1: プログラムに使用する気温データには各地域のアメダスデータを利用した。

注2: 平成20年5月13日現在で予測し、5月14日以降のデータは過去3年の平均値を利用した。

注3: 各地域のアメダスの海面からの高さは以下のとおりである。山間部では予測発生ピーク日が遅れる場合があるので注意する。

アメダス地点の海面上の高さ

長崎 27m、佐世保 4m、大村 3m、島原 9m、松浦 5m

6. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

平成19年11月に実施した温州みかん果実の病害虫発生状況調査の結果、ヤノネカイガラムシの被害果率は0.3% (0.5%)と平年並であった。

(3) 防除上注意すべき事項

各地区の防除適期日は、下表のとおりである。

表 ヤノネカイガラムシの初発日と防除適期

地区名	長崎	西諫早	大村	島原	口之津	大瀬戸	佐世保	松浦	平戸
初発日	5/7	5/11	5/10	5/8	5/7	5/9	5/8	5/13	5/10
防除適期 (IGR 剤)	6/1	6/5	6/4	6/2	6/1	6/3	6/2	6/7	6/4
防除適期 (有機リン剤)	6/16	6/20	6/19	6/17	6/16	6/18	6/17	6/22	6/19

注 1 : 「果樹防除適期判定システム(ヤノネカイガラムシ)」を利用して予測した。

注 2 : 初発日は長崎県総合農林試験場(西諫早)と気象庁アメダスがある地点で算出し、防除適期は昆虫成長制御(IGR)剤でその25日後、有機リン剤で40日後とした。

注 3 : 各地域のアメダスの海面からの高さは以下のとおりである。同一地区内でも山間部では、表より防除適期が遅れる場合があるので注意する。

地点の海面上の高さ

長崎 27 m、大村 3 m、島原 9 m、口之津 10 m、
大瀬戸 43 m、佐世保 4 m、松浦 5 m、平戸 58 m

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率1.0%(0.8%)、発生圃場率は50.0%(31.4%)であった。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率3.3%(0.3%)、発生圃場率は90.0%(21.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

収穫終了後、夏葉伸長期に薬剤を散布する。

3. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.0%、発生圃場率0.0%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)での誘殺量は平年よりやや多く推移している(図)。

(3) 防除上注意すべき事項

食入口ががんしゅ病の感染拡大の要因となるので、がんしゅ病と同時に防除する。

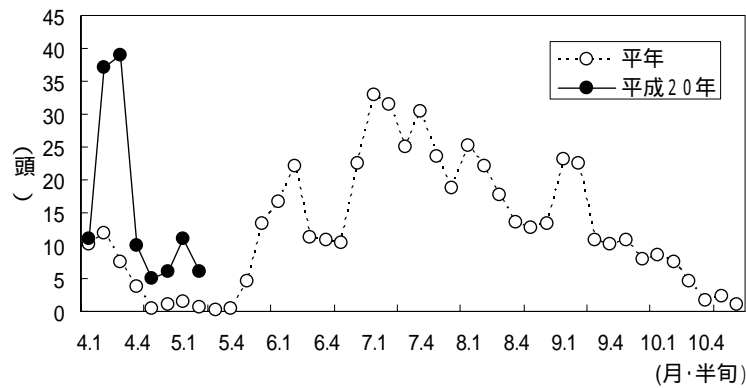


図 ナシメシクイの誘殺状況(諫早:フェロモントラップ)
平年値は平成15～19年の平均

なし

1. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(葉では発病葉率0.4%、発生圃場率26.6%、果実では発病果率0.1%、発生圃場率10.3%)。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生新梢率は4.0%(1.1%)、発生圃場率は66.7%(20.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

ぶどう

1. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は16.7%(6.3%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並に推移している。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 各地区のフェロモントラップの誘殺量は平年より少なく推移している。

イ 1～2月に実施した越冬量調査の結果、越冬量は平年より少なかった。

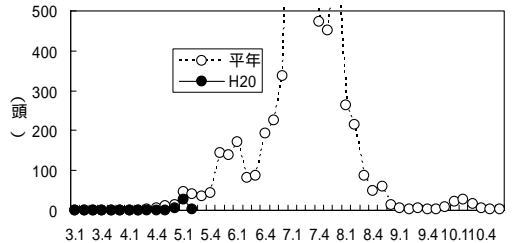


図 チャバネ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(諫早:黄色コガネコル) (月・半月)
平年は平成15～19年の平均

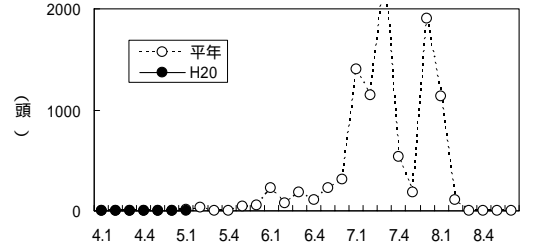


図 チャバネ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(多良見:黄色コガネコル) (月・半月)
平年は平成17～19年の平均

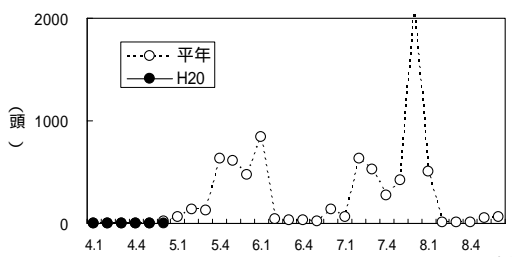


図 チャバネ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(有家:黄色コガネコル) (月・半月)
平年は平成17～19年の平均

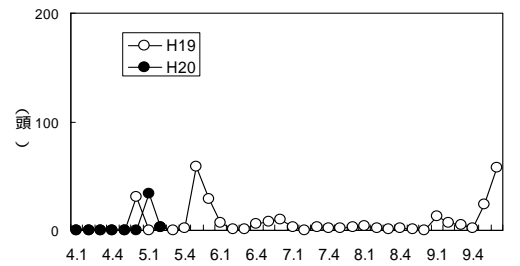


図 チャバネ・ツヤアオカメムシの誘殺状況
(西彼:黄色コガネコル) (月・半月)

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率0.0%)。

2. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.2%(0.6%)、発生圃場率は15.0%(19.5%)であった。

3. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

平成19年の第3世代の発生量は平年並であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると薬剤の効果が低下するので、下表のふ化盛期予測日を中心に防除する。なお、独自にふ化盛期日を現地調査し防除

- 適期を判断している地域ではその判断を優先する。
 イ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

表 「有効積算温度則による防除適期予測法」によるクワシロカイガラムシのふ化盛期予測日

地区名	東彼杵 太の原	五島 上大津
平成20年	5 / 22	5 / 16

- 注1：ふ化盛期予測日は「有効積算温度則による防除適期予測法（東彼杵茶業支場）」により算出した。
 注2：使用する気温データには、東彼杵茶業支場の気温データとアメダスデータを利用した。
 注3：同一地区内でも標高や土地条件でふ化盛期日が異なるので注意する。

4. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査（20筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡当たり巻葉数0.0枚、発生圃場率1.3%）。

イ フェロモントラップによる誘殺量（東彼杵茶業支場調査）は平年並であった（図）。

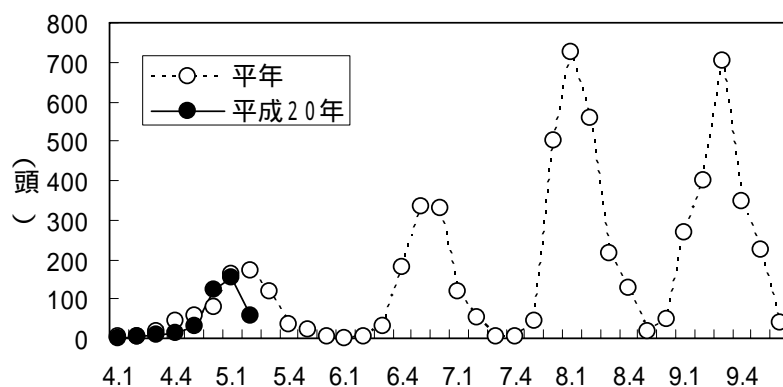


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)(月・半月)
 平年は平成15年～19年の平均値

5. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査（20筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡当たり巻葉数0.1枚、発生圃場率11.0%）。

イ フェロモントラップによる誘殺量（東彼杵茶業支場調査）はやや多かった（図）。

(3) 防除上注意すべき事項

合成ピレスロイド剤の散布後、カンザワハダニの発生が増加する場合があるので注意する。

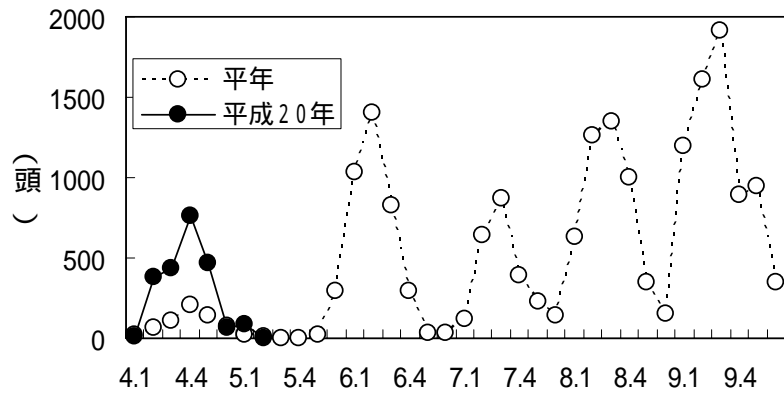


図 チャホリガの誘殺状況(東彼杵:フェロントラップ) (月・半旬)
 平年値は平成15年～19年の平均値

6. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は17.5頭(7.7頭)、発生圃場率は65.0%(53.2%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

7. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は3.1頭(0.4頭)、発生圃場率は60.0%(17.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

幼虫は葉裏にいることが多いので、葉裏にも十分薬剤がかかるよう散布する。

